魔の満月に至る口寄の秘戯

降臨

少年は凍れる雪を抱いてめざめる
熱い唾液のこぼれる彼方に
夜の森がひろがると思えて
炬火に蝙蝠が亡る
歩幅をせばめて
樹々の寝息を乱す
水烟のこもる細流で
一房の南天が漂う
女のように深い声をあげると
亡霊どもはぞくぞくする
澱に塗れた短剣を
掌に忍ばせ
初心な母親を刺してきたのだ
夜を迎えるために

坂西真弓